

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2021年5月NO.50

SMILES

<https://www.childfund.or.jp>



完成した校舎の手洗い場で食器を洗う子どもたち

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

子どもたちが
安心して学べる学校を

ネパール「災害に強い学校づくりプロジェクト」2年半の歩みを振り返る

特集

子どもたちが 安心して学べる 学校を



ネパール「災害に強い学校づくりプロジェクト」
2年半の歩みを振り返る

地震によって倒壊した学校の再建と防災能力強化に取り組む「災害に強い学校づくりプロジェクト」。2018年より実施しているこのプロジェクトも第1期、第2期が完了し、今年第3期をスタートさせることができました。今回の特集では、2年半にわたるこれまでのプロジェクトの歩みを振り返っていきます。

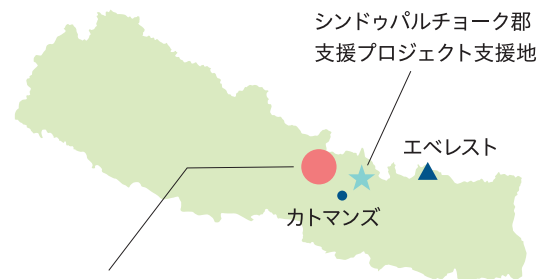
子どもたちの命と 学びの場を奪った ネパール大地震

2015年4月25日、マグニチュード7.8の巨大な地震がネパールを襲いました。チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているシンドゥパルチョーク郡は、もっとも被害の大きかった地域の1つで、約90%の家屋が全壊・半壊するという大きな被害を受けました。

死者数は、実に地域内で3,573人にのぼり、犠牲者のうち1,230人(約34%)は18歳以下の子どもでした。



倒壊した家屋の当時の様子



震源地

カトマンズの北西80キロメートル
マグニチュード:7.8

地震による落石やがけ崩れに遭ったり、倒壊した建物の下敷きになったりして命を落しました。

地域の学校も約90%となる567校が全壊・半壊し、子どもたちの学びの場が奪われてしまいました。

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、緊急・復興支援を実施し、食糧の配布や仮の住まいのための資材配布、仮設教室の建設など、様々な支援を行いました。

2018年11月からは、学校や地域が自然災害に適応できるように、校舎の再建とともに、学校の防災能力の向上も目指したプロジェクト「災害に強い学校づくりプロジェクト」をシンドゥパルチョーク郡で開始。日本NGO連携無償資金協力の助成と皆さまからのご支援をもとに、SDGs(持続可能な開発目標)の目標1.5(災害に対するリスクの軽減)や目標4(質の高い教育の確保)の達成にも貢献する活動として、プロジェクトを進めています。

第1期 ジャナジャグリティ校の 建設

2018年からスタートしたプロジェクト第1期では、ジャナジャグリティ校の再建を行いました。ジャナジャグリティ校は、地震によって13教室中2教室が全壊、6教室が半壊という被害を受けた学校です。トタンやベニヤなどによる応急処置は施されていたものの、安全面では非常に危険な状態がありました。

プロジェクトの実施期間中、スタッフはたびたび現地事務所から建設現場へ足を運びましたが、道は舗装されておらず、雨季には沼のようになり、至るところでがけ崩れが発生して車では通れなくなることもありましたが、約1年間の工事期間を経て校舎は無事完成。大地震後に設定されたネパールの新しい耐震基準を満たし、子どもたちが安心して学べる学校となりました。教室にはろ過機も設置し、安全な水が飲めるようになっています。



完成したジャナジャグリティ校

さらに新校舎には新しい図書室も整備。大地震が起きてから、学校の図書室は長らく閉鎖されていましたが、今回の校舎建設とともに再開し、約4,000冊の本が並びました。これまで本を読む機会の少なかった

子どもたちは、新しい図書室を喜び、毎日のように通う子どももいるほどです。

「災害に強い学校づくりプロジェクト」では、校舎建設だけでなく、学校の安全計画づくりも支援しています。

日本と同じように地震の多いネパールですが、支援地域では、日本で当たり前の避難訓練が行われていませんでした。いつ起こるか分からない災害に備え、学校の防災能力の強化は重要な課題でした。

プロジェクトでは、学校の先生や学校運営委員会(先生、保護者、地域住民、子どもが参加する、学校の運営方針などを検討する会議)のメンバーを集め、学校の安全計画づくりを支援しました。安全計画は災害が発生した際、誰がどのような役割を担うのかをあらかじめ決め、それに沿って普段から準備をするためのものです。

計画の作成後は、その計画にもとづき、避難訓練を実施したり、同じくネパールで活動するシャンティ国際ボランティア会と協働し、紙芝居を使った防災教育の授業を実施したりしました。特に紙芝居は子どもたちにとっても好評で、食い入るように話を聞いていました。



紙芝居をのぞき込む子どもたち

ネパールでは
一般的でなかった
避難訓練

プロジェクト概要

概要	平時だけでなく、災害が起きたときにも子どもたちが守られる教育環境を整えることを目的に、耐震基準を満たす校舎の建設、学校安全計画づくり・防災授業・避難訓練などを支援します。
支援対象	支援地域の公立校に通う生徒、教員、学校運営委員会のメンバー
協力団体	TUKI (TUKI Association Sunkoshi: 子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO)、GMSP (Gramin Mahila Srijansil Pariwar: 女性や子ども、抑圧されたグループの権利の推進を目指す現地NGO)
助成	日本NGO連携無償資金協力

コロナ禍での プロジェクトとなった 第2期

2019年12月からスタートしたプロジェクト第2期。今回はジャナタ校の再建に取り組みました。

校舎を建てる用地は、耕作されずに放置された斜面の土地。「こんなところに建設できるのだろうか」という不安の声も聞えましたが、整地は無事に完了し、作業は基礎工事へと進んでいきました。

ところが、2020年春から、ネパールでも新型コロナウイルスの感染が確認され、3月に全国的なロックダウンが実施されました。建設作業も一時中断せざるを得なくなりました。

学校も休校が続いたため、学校安全計画づくり、避難訓練などの支援もまったく行えない状況となりました。

幸い、建設作業については比較的早くに規制が緩和され、6月から工事は再開。全体的な工期に遅れが生じたものの、最終的には2021年1月に無事完成させることができました。



完成した図書室で本を読む子どもたち



サッカーも広々できるようになった校庭

完成した地域最大規模の校舎には、通常の教室に加えて、実習室、図書室なども新たに設置され、校庭ももとの校舎の何倍もの広さになりました。子どもたちは広いスペースでサッカーをしたり、かけっこをして速さを競ったりと、これまでの校舎ではできなかったことを思う存分楽しんでいきます。

一方、休止していた学校の安全計画づくりなどは、9月によく再開。マスクをつけ、参加人数を制限しながら、防災に関する基礎的な研修を行い、その基礎知識をもとに地域内の危険な箇所を把握するための調査やハザードマップの作成を行いました。子どもたちに対しては、防災の紙芝居の実演を行い、災害時の行動のとり方などを指導しました。

このように、新型コロナウイルス感染拡大の渦中での活動となった第2期でしたが、第1期で経験した困難を学びとし、あらかじめ対策をとるなどしたことで、全体としてはスムーズな事業運営となりました。2021年2月3日には締めくくりの式典となる竣工式を行い、学校へ新しい校舎を引き渡し、プロジェクト第2期が無事に完了しました。

現地の先生、子どもたちのコメント

旧校舎の近くには川があり、安全面で心配がありましたが、新しい学校は整地された土地にしっかりと立っていますし、フェンスや門があって部外者が入ってきてしまう危険性もありません。これまで低学年の子どもたちが一緒に使っていた教室もきちんと学年ごとに分けられました。(ジャナタ校 校長)

これまでの教室には照明がなくいつも暗かったけど、これからは明るい教室で勉強できるので嬉しいです。(8年生の女の子)

新しい学校にはこれまでなかった広い校庭があるのが嬉しいです。僕の大好きなサッカーがここでは思いっきりできます。授業でコンピュータについての本を読んだので、実習室にコンピュータが入ったら使ってみたいです。(8年生の男子)

たくさんの人に見守られ、支えられたプロジェクト

プロジェクト・マネージャー 滝田裕之



現地でプロジェクトの
進行管理を行うプロジェクト・
マネージャーの滝田

私が現地を初めて訪れたのが2018年秋。暮れには第2期の建設用地を初めて訪問しましたが、スタッフみんなで岩の上によじ登って、足についたヒルをとりながら会議をしたのを今でもよく覚えています。学校や学校運営委員会に対して、校舎の建設の内容をお披露目する機会でしたが、大人たちがヒルから逃げるために岩に乗って話しているのは、なんだか不思議な光景でした。

それから現在に至るまで、プロジェクト・マネージャーとして、事業の進捗管理、資金管理、在ネパール日本国大使館や東京事務所との連絡・調整などを担当してきました。ネパールでの生活は初めてで、食事といえばダルバート(カレーとご飯と野菜のセット)しかない国内出張など、慣れない生活に不便も感じましたが、今では現地スタッフとも阿吽の呼吸で仕事が進められるようになりました。また、ネパール語が分からないなりに話していることはだいたい理解できるという特殊な能力も身につけました。

そして、第1期、第2期と、無事に2つの校舎が完成し、各学校における学校安全計画も無事に策定することができ、嬉しく思っています。特に、先日完成したジャナタ校では、旧校舎に通う子どもたちが新校舎を見にきたり、近所のお母さんたちが屋上から景色を眺めていたり、「みんなこの校舎が完成するのを心待ちにしていたんだな」と思え、完成したことの喜びが湧き上がってきました。もとの傾斜地を見たときは、「ここで子どもたちがサッカーをできるようになる日が来るのだろうか」と思ったこともありましたが、計画していた立派な校舎が現実のものとなり感慨もひとしおです。

もちろんうまくいったことばかりではありません。小さな例ですが、防災の日に子どもたちに配布したフード付きのパーカーも、汚れが目立ってしまう色だったので、何か対策がとればよかったなと思いました。斜面に植えた紫陽花が育たずがっかりしたこともありましたが、何事も実際にやってみないと分からないことがたくさんあり、パーカーの色ひとつとっても、もっといい色があったんじゃないかと、私たちスタッフは常に考え、次なる機会における改善へのステップとして捉えています。これが最高、これ以上はなし、と感じる日は私たちには当分訪れないでしょう。これからも、日々改善しながらよりよい学校をつくっていきたいと思っています。



現地の中心的スタッフの1人マノジ

ここでは、プロジェクト・マネージャーとしてこのように私がお話をしていますが、このプロジェクトには、実に多くの人がかかわっています。活動を支援してくださる在ネパール日本国大使館はもちろん、資材や備品の納入業者、それを運搬する人、設置し工事する人、会計作業をする人など、あらゆる面で支えてくださった人たちが大勢います。この校舎建設や防災能力強化が、そうした人たちの力によって、そして支援者の皆さまの手によってできあがったことに深く感謝したいと思っています。

プロジェクトは 第3期へ

ジャナタ校の建設完了をもってすべての事業が終了したプロジェクト第2期。現在、プロジェクトは第3期へと進んでいます。

2015年の大地震からはすでに5年以上が経過しており、地域の学校の復興は着実に進んでいます。しかし、いまだに根本的な改修がされておらず、災害のリスクが高いままの校舎もあるのが実態です。

プロジェクト第3期では、引き続き、外務省の日本NGO連携無償資金協力の助成と、皆さまからのご支援のもとに、耐震性の高い校舎建設、防災研修・避難訓練などの防災能力強化の支援を行ってまいります。



建設予定地を調査するスタッフ

子どもたちが安心して学べる環境を整えるため、引き続き「災害に強い学校づくりプロジェクト」へのご寄付を受け付けております。



お申込みページ

母子手帳で守る お母さんと子どもの健康プロジェクト



昨年作成した母子手帳

チャイルド・ファンド・ジャパンは、昨年、ベトナムにおける妊産婦、乳幼児への支援を開始しました。

チャイルド・ファンド・ベトナムの行う事業をサポートし、山岳地帯の少数民族に対し、母子手帳を活用した支援を行っています。今号では、このプロジェクトの目的や背景、活動内容などをお伝えします。

妊婦と赤ちゃんの健康を管理する母子手帳。日本では一般的に活用されている母子手帳ですが、実は世界で初めて導入したのは日本です。戦後まもなくの1948年に、妊産婦手帳と乳幼児体力手帳が統合されて生まれました。母子手帳の活用もあり、日本の妊産婦・乳幼児死亡率は世界トップクラスの低さを実現しています。

SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」では、妊産婦の死亡率、新生児や5歳以下死亡率の低下が掲げられており、依然としてこれらは世界的な課題となっています。日本の母子手帳は、世界の母子の命と健康を守るため、JICA（国際協力機構）などによって、これまでに多くの国に導入されてきました。

プロジェクトの事業地ベトナムでは、政府による保健医療改革、急速な経済成長および各国の援助によって、妊産婦死亡率、乳幼児死亡率などの基礎保健指標が年々改善されてきています。しかし、貧困層や地方住民、少数民族の保健指標は全国平均と比較すると極めて悪く、その格差が課題となっています。

例えば、乳幼児死亡率については、人口の大多数を占めるキン族と比べて、少数民族は4倍の高さとなっています。地域のヘルスワーカーが母子保健に対する十分な知識をもっていないことや、親自身が十分な知識をもっていないことなどが、こうした状況を招いています。

プロジェクトの支援地域であるホアビン省も、人口の約73%が少数民族です。



支援地域のホアビン省はベトナム北部に位置する山岳地帯

支援地域の新型コロナウイルスの状況

続報

フィリピン

今年3月に入り感染が急拡大し、マニラ首都圏では、外出制限が最も厳しいレベルに強化されています。ワクチンの接種は始まっていますが、1日あたり4,000人弱と極めて遅いペースとなっています。学校は依然として対面授業が再開されていません。

ネパール

今年4月に入り感染が急拡大し、ロックダウン実施の可能性が高まっています。学校の対面授業は再開されていましたが、都市部を中心に再び休校措置がとられることとなりました。ワクチンは医療従事者、高齢者への接種が始まっています。

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、昨年、医療法人社団崎陽会 ぽかぽか基金(日の出ヶ丘病院)さまのご支援のもと、チャイルド・ファンド・ベトナムの事業をサポートし、ベトナム山岳地帯の妊産婦、乳幼児への支援を開始しました。

ベトナム保健省、ホアビン省保健局と連携しながら、母子手帳を作成し、8,299部を印刷。各ヘルスセンターに配布したのち、ヘルスセンターの職員が妊婦に配布し、使い方などを説明しました。こうした活動を通して、山岳地帯の母子に対する、質の高い母子保健サービスへの公正なアクセスを目指しています。



医療従事者が妊婦に母子手帳の使い方を指導



ヘルスワーカーが両親に母子手帳の使い方を指導

2021年も、昨年実施したプロジェクトの経験や成果をもとに、引き続き、ベトナムホアビン省山岳地帯のお母さんと子どもに対して支援を行っていきます。ヘルスワーカーや母親、父親などに対して、母子保健に関する研修を行うとともに、母子手帳の作成、配布を行い、正しい保健知識のもと、適切な健康管理が行えるように支援していきます。

このプロジェクトへのご寄付の受付をホームページ上で開始しました。
皆さまの手で、ベトナムの少数民族のお母さんと子どもたちの健康を支えてください。



お申込みページ

プロジェクト概要

概要	山岳地帯に住む母子の健康が保たれることを目的に、研修や母子手帳の配布・活用などを通して、地域の母子保健サービスの質の向上、親の母子保健に関する知識・理解の向上を目指します。
支援対象	ベトナムホアビン省(キムボイ県とタンラック県)の妊産婦、5歳以下の子ども、親の約30,000名
協力団体	ベトナムホアビン省(キムボイ県とタンラック県)の各人民委員会
事業期間	2019年9月3日～2022年6月30日

スリランカ

昨年10月より感染が急拡大し、11月から今年2月にかけて厳しい状況が続きました。その後も予断を許さない状況が続いています。ワクチンの接種はすでに始まっており、医療関係者や警察関係者などの先行接種が進んでいます。学校は西部地区を除いて再開していましたが、3月に入り西部地区でも再開の見通しとなっています。

なお、学校の2020年度の年度末、新学期開始の見通しは以下のとおりです。

フィリピン 年度末は7月10日、新年度開始はその2週間後の予定(例年の年度末は3月)

ネパール 年度末は5月、新年度開始は6月か7月の見込み(例年の年度末は3月)

スリランカ 未定(例年の年度末は11月)

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、引き続き、感染状況や学校の状況を注視しつつ、感染予防などの支援を続けてまいります。

お知らせ

子どものセーフガーディング推進中!

チャイルド・ファンド・ジャパンは、子どもの支援に取り組む団体として、「子どものセーフガーディング」を推進しています。「子どものセーフガーディング」とは、支援事業や広報・啓発事業などのすべての活動において、子どもたちがあらゆる危害から守られるよう、組織の責任として取り組むことをいいます。

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、これまでに、「子どものセーフガーディング方針」の策定、子どもへの危害が発生したときの対応マニュアル作成など、基本的な運営体制づくりを進めてきました。また、最近では、現地事務所におけるセーフガーディング方針の策定、ホームページ上のコーナー設置、団体封筒へのメッセージ掲載といった取り組みを行ってきています。セーフガーディングの運営体制をより強化するとともに、取り組みを広く伝えていくことも進めています。

子どものセーフガーディングは、団体のすべての活動において必要となる取り組みです。皆さまにもご理解とご協力をお願い申し上げます。



セーフガーディングについて記載した新しい団体封筒

ご報告

成長の記録などをお届けしました

各国のチャイルドをご支援くださっているスポンサーの皆さまへ、成長の記録などをお届けいたしました。

フィリピン 成長の記録(2019年度)

新型コロナウイルスの影響で大幅に遅れが生じ、ご心配をおかけしまして申し訳ございませんでした。コロナ禍での各地域の活動についてもご報告していますので、成長の記録とあわせてぜひご覧ください。

ネパール 新年カード

ネパールでは、ビクラム暦と呼ばれるこよみが使われており、新年は4月の中旬から始まります。今年は4月14日からビクラム暦の2078年がスタート。新年カードにも



成長の記録と地域の活動報告 (フィリピン)



カラフルな色紙で飾りつけされた新年カード(ネパール)

「Happy New Year 2078」と書いているチャイルドが多いようです。かわいらしい手作りのカードをぜひご覧ください。

スリランカ 感謝のカード

「コロナ禍でご支援くださっているスポンサーの皆さまに、地域のみんなで感謝を伝えたい」という想いで、地域からの感謝のカード(Community Card)をチャイルドが作成しました。すてきな絵が描かれた個性豊かなカードをぜひご覧ください。



美しい風景画を描いたチャイルド(スリランカ)

ChildFund Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

チャイルド・ファンド・ジャパンだより **スマイルズ SMILES**
 特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
 理事長/長山信夫 事務局長/武田勝彦
 TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
 E-mail: inquiry@childfund.or.jp
 URL: https://www.childfund.or.jp/

2021年5月発行
 (デザイン)
 モスデザイン研究所
 (印刷)
 吉原印刷株式会社